

大学出版

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

THE ASSOCIATION OF JAPANESE UNIVERSITY PRESSES

*特集

第二六回日韓セミナー

黒田拓也

1

第三六回日韓大学出版部協会合同セミナーを終えて

渡辺 浩

3

「華夷」と「武威」

——平和の持続の難しさについて（要旨）

金 美淑

9

読者と共有できない専門知

——学術書のテキストは読者と意思疎通しているのか（要旨）

小林直之

14

学術書・専門書の読者開拓

——大学出版部にながでさるか

大学出版部ニュース

19

No.116

2018.10

秋



一般社団法人
大学出版部協会

大学出版部協会 新刊ご案内

ブックレット第4弾

対立を乗り越える 心の実践

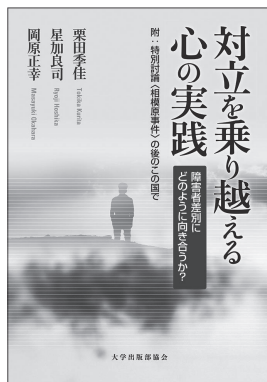
障害者差別にどのように向き合うか？

栗田季佳・星加良司・岡原正幸

大勢の障害者の命が奪われた〈相模原事件〉を起こす影は、私たちの内にある。制度や「ねばならない」的教導では、差別はなくなるしない。「潜在化する偏見」を炙りだし、その原因となる心のメカニズムと社会的背景にまで遡って考察することで、差別解消への糸口を考える。

[発行：大学出版部協会／発売：東京大学出版会]

ISBN978-4-13-003153-0 2017年2月刊行
A5判／88頁／本体1,000円＋税



主要 目次

- 第1章 見えない偏見
障害者を取り巻く問題に現れる心の動き（栗田季佳）
- 第2章 バリアフリーという挑戦
「社会を変える」ことは可能か（星加良司）
- 第3章 生の問題として〈対立を乗り越える〉を考える（岡原正幸）
- 第4章 討論
対立を乗り越える学問の挑戦（栗田季佳・星加良司・岡原正幸）
- 第5章 特別討論〈相模原事件〉の後のこの国で
有事モード下の差別と偏見

第三六回日韓大学出版部協会合同セミナーを終えて

黒田拓也

(大学出版部協会理事長)

去る七月一八・一九日の二日間、大変な猛暑が続く福岡で、第三六回日本・韓国大学出版部協会合同セミナーが開催された。韓国側から八大学出版部・一六名、日本側から一四大学出版部・三〇名の参加を得て開催され、韓国大学出版部協会の皆様とは、昨年一月、韓国・済州島での第三五回セミナーから七カ月ぶりの再会となった。

今回のセミナーは「学術書・専門書の読者開拓——大学出版部に何ができるのか」を主題として掲げた。これはここ最近、毎年六月のソウル国際ブックフェアで、韓国大学出版協会が大きなブースを構え、一般読者に自らの存在を強くアピールする取り組みを続け、またその場で日本の大学出版部協会の書籍を一〇〇点以上展示・販売してくださったり、日本側でも二月の築地本マルシェで同様のテーマのセミナーを開催しつつ、ブースでは日本側の書籍のみならず韓国側の書籍も展示したりと、日韓の読者を意識した

取り組みを継続してきたことをさらに深めていくという意図があった。

本セミナーでは、その主題に取り組む一環として、開催地福岡のジュンク堂書店福岡店のご協力を得て、大学出版部協会のフェアを行ってもらうとともに、韓国大学出版部協会加盟社の書籍もその店頭で販売された。韓国からの留学生も多い福岡の書店で韓国語の書籍が販売されたことは意味のあることだったと考えている。問題意識を共有してくださり、多大なるお力添えを賜ったジュンク堂書店福岡店の皆様には、この場を借りて心から感謝申し上げます。

さらに今回特筆すべきことは、主題を議論する前に、渡辺浩先生（東京大学名誉教授・日本学士院会員）をお招きして、特別講演「『華夷』と『武夷』——平和の持続の難しさについて」を行っていただいたことである。

その講演の詳細は本誌へ寄せていただいた渡辺先生の論

考を参照していただければと思うが、そこでは、朝鮮通信使をめぐる朝鮮側の認識と日本側の認識との齟齬が、双方にとつての歴史的な悲劇につながっていく様が鮮やかに描き出され、平和の持続と交流が必ずしも友好をもたらしものではないこと、「平和が継続し、交流が持続する中においても、もしもその継続と持続を望むならば、それが相互の理解と友好をもたらしように意識的に努力することが必要だ」ということを指摘してくださった。

日韓双方の参加者と一緒に、こうした複雑な歴史について深く考える場を持てたことは非常に有意義だった。三〇年以上継続してきている日韓大学出版部協会の交流と友好をさらに発展させるためにも、今後も不断の努力を重ねさまざまな取り組みを継続しその実績を残すことが必要であることを改めて確認できた。

セミナーの具体的な内容については、これも本誌に日韓双方の報告者、金美淑さんと小林直之さんの発表の概要が掲載されているのでそちらを読んでいただければ有難いが、大学が創造する成果をできるだけ多くの人びとに開放しアクセスしやすい回路を作る役割は、日韓の大学出版部に課せられたものであり、それぞれなら違いはない。この間、こうした議論を深め共有していく場があること、率直な意見交換をすることができる仲間が年々東アジアに広がっていくことは本当に心強いことだと思っている。これは繰り返して考えていることだが、三〇年以上途切れることなくこ

の合同セミナーを続ける努力を惜しまなかった日韓双方の諸先輩方の積み重ねのおかげであろう。

本セミナーに先立って行われた代表者会議では、「日韓・韓日大学出版部協会の協力増進のための業務協約書」を結ぶことが確認され、セミナーの最後で協約書の調印式を行った。協約書には、将来の共同でのコンテンツ開発を視野に、両協会が参加する事業推進組織の設置が盛り込まれ、日韓双方の出版コンテンツの相互交流を進め、両国の出版文化産業の発展に寄与することを目的に共に歩んでいくことが確認されたのである。

これまでは基本的には年に一回、この合同セミナーで直接議論をすることが主であったが、双方の大学出版をめぐる状況が大きな変化にさらされていくなかで深めてきた問題意識、出版のあり方の新たな方向性等をより明確なかなちあるものにしていくために、この協約は重要なものになると考えている。小さな場での相互交流の活発化によって、よりリアルタイムで双方の出版の課題を共有し、そして時には共に解決策を見出していくような活動ができるようにしていきたいと思う。

この一月には、韓国大学出版協会によって「韓国・日本の大学出版協会交流三十七年史」が作成される。日本大学出版部協会も詳細な資料の提供などを行う。日韓共同の歴史を改めて振り返り、新時代の大学出版を構築するための重要な一歩を共に踏み出したい。

「華夷」と「武威」——平和の持続の難しさについて（要旨）

渡辺浩

（東京大学名誉教授・日本学士院会員）

（本稿は、二〇一八年七月十九日、大学出版部協会の第三十六回日韓セミナーで行った報告の、冒頭部分と結語との要旨です。）

（一）朝鮮国と日本国との間では、一五九八年に秀吉の軍隊が朝鮮から撤退して以後、一八七五年の日本の軍艦による江華島攻撃まで平和が持続した。特に一六〇七年に朝鮮国の「回答兼刷還使」を徳川政権が受け入れて以降は、朝鮮国との間で安定した外交関係が成立していた。釜山に近い東萊には、対馬の大名、宗氏の派遣した武士と商人とが滞在する「倭館」（敷地は約十万坪）が設けられ、活潑に貿易が行われた。朝鮮からの米・木綿・生糸、そして薬用人参などの輸入が、対馬の人々の生活を支えていた。一方、対馬を経由して日本からは銀や銅が輸出され、それは朝鮮政府によって清国への朝貢にも使用された。また、毎年頻々として起きた海難事故による漂流民は、「約条」に基づき、

対馬を媒介としてそれぞれの本国に送還されていた。そして数年に一度、実務的な交渉のために数十人からなる朝鮮の使節団が対馬を訪れた（「訳官使」。計約六〇回）³。

さらに、概ね徳川将軍が交替する毎に、ソウルからは朝鮮国王の使いが日本に赴き（「回答兼刷還使」「通信使」、江戸まで旅をした。彼等は千代田城の御殿で国王の書簡を提出し、次に、それに感謝する回答書を将軍から受け取って帰国した。朝鮮国王と将軍の書簡は、いずれも厳密に対等の内容・書式だった。

通信使の一行は、五〇〇人近い大人数である。彼等は、時には海上の嵐に遭って命の危険にもさらされながら、一年近い旅をしたのである（一六二四年から一七六四年まで、合計九回。それ以前に二回。また一八一一年には「易地通信」として対馬まで。合計十二回）。大変な労苦だった。一方、日本側の接待も大規模だった。通信使一行の応対に動員さ

れた人々の数は一日数千人に及び、東海道を進む行列の総人数は五〇〇〇人弱にも及んだ。通信使一行の食用に、農民達に多数のイノシシの捕獲が命ぜられ、その肉が江戸に送られることもあった。そのような大事業が、約一世紀半、反復されたのである。

(二) そこで、この時期の朝鮮国と日本国との関係は、それ以前・以後と比較して、「善隣」「友好」の時代だったとして、しばしば語られる。

確かに、大坂で船を降り、江戸までの陸路を進む通信使の行列には、膨大な数の見物人が押し寄せ、その堂々たる進行を静かに見守った。また、通信使の宿舎には、彼等に詩文を書くようにせがみ、あるいは自分の詩を見せて評を乞う人々が、多数つめかけた。とりわけ「文」における対応のために特に使節団に加えられていた「製述官」は、日夜訪れる日本の文人への応対に疲労困憊する有様だった。儒学や医学に関する情報も交換され、相互に知的刺激を受けることもあった。彼等の江戸の宿舎を九回も訪れて、筆談を続けた儒学者もいた。日本の文人と使節団の成員とが唱和した詩は、往々直ちに詩集として印刷・刊行された。さらに、通信使の宿舎を訪れ、一行の中の美服をまとった「官童」の脣にキスをした日本人の町人ささいた(西暦に換算して一七二二年一月七日。名古屋で)。「男色」がまったく異常とは考えられていなかった当時の日本では、ありえないことではない。

しかし、通信使の江戸訪問は、一七六四年が最後になった。その後は対馬への訪問で済ませることとなり、それも一八一一年の一回だけで終わった。通信使を派遣しよう、そしてそれを受け入れようという双方の意欲が萎えてしまったのである。強い熱意を持って朝鮮通信使の江戸訪問を実現しようという勢力は、両国のどこにももう無かった。

逆に、一八六三年になると、「外夷」(西洋人)に脅かされている朝鮮に進出し、「時宜により、兵威を以て服従さすべき」だとする一種の「征韓論」を、あの対馬の大名が唱えるに至る。一八七〇年代以降の両国関係を予兆する、不吉な主張だった。

(三) そもそも、なぜ、朝鮮国王は日本の軍事支配者の代替わり毎に、それを祝う使節を送ったのだろうか。なぜ、対馬との貿易だけに日本との関係を限定せず、費用と労苦にもかかわらず、大使節団を当時の日本の政治的首都にまで送ったのだろうか。

それが、孟子の教える「隣国に交はる道」(『孟子』梁恵王下)だったからだという説明はなりたない。「交隣」とは小国が大国につかえる「事大」と、大国が小国を慈しむ「字小」の総称である。孟子は、近隣の対等な国同士との交流を「道」として勧めているわけではない(現に、朝鮮国王と琉球国王は交際しない)。

しかも、そもそも当時の朝鮮国の支配層は、日本も満州族の支配する清国も、共に「夷狄」であり「蛮夷」である

と考えていた。そして、自分たちのみが正しい「礼楽」と「学問」を守っていると自負していた。朝鮮こそが、小さいながらも、真の「中華」の伝統を守っている「小中華」だった。だとすれば、「夷狄」である日本こそが朝鮮に朝貢使節を送るのが「道」だったはずである。

また、文化的優越を自負する朝鮮国政府が、野蛮な日本人を啓蒙するために使節を派遣したのだという説明も成り立たない。儒学では、徳を備え、礼楽の美に輝く「中華」に周辺の「夷狄」が憧れ、慕い寄ってくるはずだと考える。「中華」の側から宣教し、啓蒙するために使節を派遣し、しかも、逆に「夷狄」の側が「中華」の首都を訪れることは許さないというのは、儒学の常識に反する。

では、なぜ日本に通信使を派遣したのか。それは、北京への朝貢使派遣と同じく、基本的にはパワー・ポリティックスの次元での冷静な配慮だったのであろう。つまり、安全保障政策である。

朝鮮政府は、豊臣秀吉による突然の侵略というにがい記

憶を持っている。それ故に、日本からの再侵略を阻むためには、日本政府との安定した関係の維持が望ましい。また、念のために、日本国内の状況を視察し、再侵略の可能性の有無を探索することも有益である。通信使は、何よりもこのような政治的配慮によって送られていたと理解すべきである。現に、例えば一七六三年の通信正使、趙曦は、帰国後、国王にこう報告している（『趙濟谷海槎日記』〔筵話〕）。

「倭人に接する道は、もとより困難な事件の発端となりうるので、十分に熟慮し、検討すべきです。そうしてこそ、流血の事件の発端をなくすことができます。もしも事勢を理解せず、ただ威喝するならば、単に事を成しえないだけではなく、かえって後悔の種となるでしょう。これは、兵家のいう彼を知り、己を知るという難しい問題です。」（『趙濟谷海槎日記』十二月六日）

「兵家のいう彼を知り、己を知るという難しい問題」とは、

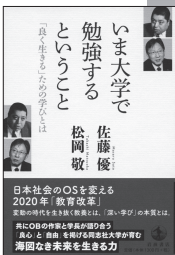
◎海図なき未来を生き抜くための高等教育とは

いま大学で勉強するということ

——「良く生きる」ための学びとは——

佐藤 優
松岡 敬

戦後最大級の教育改革を前に、「良心」と「自由」を掲げる同志社の教育を通して、共にOBである作家と学長が語り合う「何のための大学か」。



四六判・本体1300円



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋
(定価は表示価格+税)

<http://www.iwanami.co.jp/>

無論、『孫子』謀攻篇の「知彼知己者、百戦不殆」(彼を知り、己を知る者は、百戦あやうからず)という語への言及である。つまり、朝鮮政府は、儒家としてではなく、自覚的に「兵家」の論理をもって、危険な日本人を戦略的に制御しようとしていたのである。そして、それ故に、通信使を送る真の理由を日本側に率直に述べるわけにはいかなかったのである。

(四) ただ、それにもかかわらず、よく知られているように、双方とも、「誠信」を強調した。朝鮮と日本との関係は「誠信」によってこそ維持される、と双方が主張した。この「誠信」とは何か。いわゆる朱子学の大成者、朱熹によれば、「誠、実也」(『大学章句』経一章)である。そして、「信」は、「以実之謂信」(実をもってする、これを信といふ)、「信者、言之有実也。」(信とは、言の実あることなり)(『論語集注』学而第二)と説明される。形や言葉だけでなく、それらに実質・実態・実行が伴っていることである。嘘をつかず、約束を守り、誠実に相手と接することである。朝鮮の士人は朱子学者であり、日本側で特に「誠信」を主張した対馬の儒者、雨森芳洲も朱子学者である。「誠信」と言えば、その意味で理解したはずである。

ではなぜ、朝鮮・日本双方の、外交に携わった人々が「誠信」を強調したのだろうか。

それは、パワー・ポリティックスとしての外交関係であっても、あるいはより正確に言えば、そうであるからこそ、

複雑な交渉が必要だからであろう。貿易を維持するにも、また、大使節団を派遣し、受け入れ、無事に帰国させるためにも、交渉し、議論し、約束し、それを実行することは不可欠である。そうでなければ、次々に齟齬が生じ、相互にとって不都合である。それ故、いわゆる「国際法の父」、フーゴー・グロティウスHugo Grotiusに学ばなくとも、国際法の根本原則である*pacta sunt servanda*(約束したことは守らなければならない)という態度が必要となる。近代西洋国際法は、主として主権国家相互の条約つまり約束の集積であり、体系である。その根本をこの原則が支えている。現に、ヨーロッパ国際法自体、正にパワー・ポリティックスの駆け引きの真只中で発達したのである。

「誠信」とは、単なる善意の道徳論ではない。素朴な友情の表現でもない。おそらく、それは、緊張をはらむ両国関係が生み出した、東北アジア版の*pacta sunt servanda*原則だったのである。

それ故、「誠信」の強調は、対馬・日本と朝鮮とが深い相互信頼関係にあったことを必ずしも意味しない。国際法が発達した時代のヨーロッパの各国関係と同じである。実際、朝鮮側は、不断に、対馬がこの通信使を悪用して利益を得ようとしていると疑っていた。そして、対馬の人々を「偽りばかりで、その有様ははなはだ憎むべきものだ」(『趙濟谷海槎日記』十月七日¹³)と見ていた。さらに次のような指摘もある。

新刊案内

藤原直樹 著

菊判 四九〇頁 本体八八〇〇円

『資本論』の経営理論

協業論と指揮論の構築を目指して

協業と指揮に關し全く新たな概念を次々に導入し、新規の諸理論を展開している。これは『資本論』を着実に、全体的に、かつ新しい研究成果を加味しながら読み解く一つの試みである。

21世紀の『資本論』マルクスは甦る 岩崎信彦 著 本体三七〇〇円

そして、使行録の筆者は、日本人を、しばしば「巧黠」「狡黠」「狡詐」などと評している。誇り高い二国間の軍事的・政治的・経済的配慮に基づく

十月二十八日）
「趙濟谷海槎日記」

「このことからすれば、島全体の生活が専ら我が国に依存している。対馬の人々は何百年も衣食について篤い恵みを我が国から受けている。日本を骨とし、朝鮮を肉としていると言うべきである。ほんの少しの人心があるならば、その恩徳を思うべきである。ところが、事あるごとに江戸に仮託して我が国を脅そうとする。また朝鮮を理由としてその関白〔注・將軍を指す〕を欺瞞しているに違いない。規定外の利益を求めて「草梁」倭館に来る対馬の役人が年を経ても帰らず、間に立って漁夫の利を得るといふ奸習は日を逐つて甚だしい。まことに歎くべきことである。」

「善隣」と「誠信」は、必ずしも、それにかかわる当事者たちの間での信頼・尊敬・友情を意味しなかったのである。しかも、様々な事情が、徐々に、双方の交流への意欲を減退させていった。そして、ついには大きな悲劇につながっていったのである。

（五）平和の持続と交流は、当然に相互理解を深めるわけではない。平和は、必ずしも相互の理解・信頼・尊敬、そして友好を意味しない。平和の持続自体が、それを内側から破壊する要因を蓄積し、昂進させることさえある。そして、人は現状をかなり正確に認識することはできても、将来の予測は不得手である。

そうであるとすれば、平和が継続し、交流が持続している中においても、もしもその継続と持続を望むならば、それが相互の理解と友好をもたらすように意識的に努力することが、是非とも必要である。この会議が、そのための努力の一部となることを、私は心より願うものである。

内山雅生 編著

A5判 三〇〇頁 本体八四〇〇円

中国農村社会の歴史的展開

社会の変動と新たな凝集力

農民へのインタビューと村に現存する文書資料を組み合わせ、農村社会に内在する農民間の凝集力を「個の自立」との相互関係から解明した近現代中国農村社会システムの実態調査。

日本の中国農村調査と伝統社会 内山雅生 著 本体四六〇〇円

御茶の水書房

〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20
電話03-5684-0751

注

- 1) 田代和生『近世日朝通交貿易史の研究』（創文社、一九八一年）
- 2) 池内敏『近世日本と朝鮮漂流民』（臨川書店、一九九八年）、李薰（池内敏訳）『朝鮮後期漂流民と日朝関係』（法政大学出版局、二〇〇八年）。『洪訳士東槎録』（一〇月二七日）、『趙濟谷海槎日記』（六月一四日）にも、記述がある。
- 3) 田代和生『新・倭館・鎖国時代の日本人町』（ゆまに書房、二〇一一年）九五―九六頁。
- 4) 田代和生、同書九三頁。
- 5) 原田信男『江戸の食生活』（岩波書店、二〇〇三年）四四―四五頁。
- 6) 一七一九年の通信使までは、朝鮮側が日本の儒学から刺戟を受けることはほとんどなかったが、一七四八年、一七六四年には、仁齋学・徂徠学に接し、それへの対応に腐心している。夫馬進『朝鮮燕行使と朝鮮通信使』（名古屋大学出版会、二〇一五年）第九章「朝鮮通信使による日本古学の認識・朝鮮燕行使による清朝漢学の把握を視野に入れ」、第一〇章「一七六四年朝鮮通信使と日本の徂徠学」。
- 7) 三河国吉田藩松平氏に仕える儒者、「越緝」。洪景海『隨槎日録』五月二六日から六月一二日まで。
- 8) 通信使は、「官童」を数名連れており、彼等は美しい服を着て、舞を舞った。例えば、申維瀚『海游録』（六月二三日）参照。絵師、英一蝶は、馬に乗ったまま日本人の差し出す紙に字を書いている「小童」の姿を描いている。「馬上揮毫図」（一七二一年）、青丘文化ホール所蔵。
- 9) 「性高院にて世中花といふ小童を、町人口吸いに喜悅すと。」朝日重章『鸚鵡籠中記』（正徳元年一月二九日）。『鸚鵡籠中記』（四）（名古屋叢書続編第二二巻、名古屋市教育局教育委員会、一九六九年、七五頁）。性高院は、名古屋における通信使の宿舎となつた寺である。
- 10) 仲尾宏『朝鮮通信使・江戸日本の誠信外交』（岩波書店、二〇〇七年）一九六―一九七頁。
- 11) 「接倭之道、固多有難處之端、尤宜熟量而周思、然後可無生衅之端。若或不諒事勢、徒以威喝、則非但不得成事、反歸于見悔之科。此兵家所謂知彼知己之難也。」（『趙濟谷海槎日記』一二月六日）。
- 12) ちなみに、米谷均氏は、対馬「島主」に仕えた儒者、雨森芳洲の述べた「誠信之交」について、「彼にとつての『誠信之交』とは、対馬藩の藩益をまず第一に考えたものであり、単純な善隣外交を唱えたものではなかった。」と指摘している。米谷均「雨森芳洲の対朝鮮外交・『誠信之交』の理念と実態」（『朝鮮学報』第一四八輯、朝鮮学会、一九九三年七月）二四頁。
- 13) 「巧詐百出、情態甚可惡也」（『趙濟谷海槎日記』一〇月七日）。
- 14) 「以此言之、一鳥生涯專靠于我國矣。馬州之人、累百年厚蒙衣食之盛恵、可謂骨日本而肉朝鮮。苟有一分人心、其宜含恩感徳。而毎事輒皆假托江戸而恐動于我國、亦必凭借于朝鮮而欺瞞其閭白。規外希財之差倭閱歳不帰、居間漁利之奸習逐日益甚。良可痛嘆。」（『趙濟谷海槎日記』）。

読者と共有できない専門知——学術書のテキストは読者と意思疎通しているのか（要旨）

金美淑
（慶南大学校言論出版院）

「読者」の統計分析

筆者は、韓国の文化観光部と出版文化産業振興院の資料から、韓国の読書人口の年齢・学歴・所得別「読書率」「読書理由」「選好・購買図書ジャンル」を調査した。統計からわかるのは、知識を生産し、流通させるのに最善を尽くしたと自負する出版人とは異なり、知識を活用する消費者は現実的な消費者心理を見せているという点である。分析結果を要約すると以下ようになる。

第一に、韓国の人口全体の平均読書率は七四・四％、このうち成人読書人口の比率は六二・三％である。「年齢が低く、学歴が高く、所得が多いほど」読書率が高く、また書籍の評価については、「TV・新聞書評・広告」よりも「インターネット」や知人の紹介などの「対人コミュニケーション」の方が信頼度が高いことがわかる。このことは、情

報過多の時代を生きる私たちにとって、書籍の過度のマーケティングはむしろ、読者とネガティブな関係を形成し、かえって信頼を失う可能性があることを示している。

書籍の購入経路の興味深い結果の一つに、ネット書店の利用が最も多いと予測された二〇代が、実はネット書店よりも大型書店をより多く利用しているという数値がある。実際、アメリカの出版市場調査機関コードックス（Coda）は、アメリカの消費者がオンラインで新たに本を発見する割合は六・二％であるのに対し、リアル書店で発見する割合は三二％であると発表した。最近の消費者のライフスタイルに合わせて、興味や楽しみ、知的充足感まで享受できる文化複合空間を作る大型書店の積極的なマーケティングが成功を収めている証左といえるだろう。

第二に、読書理由については、年齢・学歴・所得別で興味深い差異が見られた。まず年齢別では、年齢層が低いほ

ど「知識の追求・余暇の活用・娯楽の追求」という理由から読書をするのに対し、年齢層が高くなると「自己啓発・情緒の涵養・自己実現」などの理由が高くなる。また学歴別では、大学生は「知識の追求・余暇の活用・娯楽の追求」が、高卒以下では「自己実現」が最も高く、大学院修了以上の高学歴層では「情緒の涵養」が特に高い。所得別では、高所得層が「知識の追求」、低所得層は「娯楽の追求・リラックス・余暇の活用」、中間所得層は「情緒の涵養・自己実現」のために読書をするのがわかる。

第三に、ジャンルの選好を年齢別に見ると、二〇代は「実用書」を、三〇代は「絵本・児童書」、四〇代と六〇代以上は「人文教養書」、五〇代は「学術・専門書」を愛好し、「教育書・文芸書・実用書」は若い年齢層で、「人文教養書」は高い年齢層で選好されている。所得水準別では、高所得層は「人文教養書」「学術・専門書」を、低所得層は「文芸書」「絵本・児童書」を好み、特に「教育書」は所得が最も高い層が、「実用書」は中間所得層が選好する。学歴別に見ると、大卒者は「絵本・児童書」を、大学生は「文芸書」を、大学院修了以上の層は「人文教養書」「学術・専門書」を好み、高卒以下は「実用書」をより好む。

第四に、ジャンルの選好が実際の購入に繋がるのかを分析した統計によれば、すべての年齢層において、「文芸書」の購買率が選好度より平均一二・三四%低く、「教育書」「絵本・児童書」は二〇代と三〇代で、選好度よりも購買率が

非常に高くなる。これらのジャンルの書籍は、消費財としてではなく必要財として活用されていることがわかる。また「学術・専門書」は、すべての学歴層において、選好度より購買率が高く表れている。

第五に、「学術・専門書」の読者層は、①五〇代、②三〇代、③四〇代の順であり、また高学歴層と高所得層で選好され、購買率の数字もほぼ似通っている。但し、読者の「学術・専門書」の購入決定要因が、「興味」と「面白さ」にあるという点には留意すべきである。専門特化した内容の本は、「興味」がなければ読者は選択しない。すなわち、読者は、退屈で理解しにくい難解なテキストを選択から除くのである。本が溢れかえる時代、読者に対する新たなアプローチを取らず、既存の「学術・専門書」の形式を守りつづけるばかりでは、読者への接近は期待できない。学術・専門書の著者の多くは研究者である。研究者という特性から、論文形式の執筆スタイルには慣れているも、読者の期待には充分に応えられていないのかもしれない。したがって、私たちはいま「テキスト」に注目すべきである。

学術書のテキストは「読者」と意思疎通しているのか

二〇一七年に公表されたOECDの文章読解力の調査によれば、韓国は二〇代前半の読解力では、調査対象国のなかで三位だが、二五歳を過ぎると下降し始め、四〇代に入ると平均以下に落ちる。さらに留意すべきは、韓国の海外

3つのコンセプトで読み解く
新たな「東京」ヒストリー！

みる・よむ・あるく 東京の歴史

全10巻 地帯編9月配本開始
池 享・櫻井良樹・陣内秀信
西木浩一・吉田伸之 編
各2800円 「内容案内」送呈

●千代田区・港区・ 新宿区・文京区

首都の役割を担いながら、濃密に過去の面影を残す町。(地帯編1)
(続刊)●中央区・台東区・墨田区・江東区●品川区・大田区・目黒区・世田谷区●渋谷区・杉並区・練馬区・中野区・板橋区・豊島区・北区●足立区・葛飾区・荒川区・江戸川区●多摩I●多摩II・島嶼(地帯編2-7)
(既刊)●先史時代～戦国時代●江戸時代●明治時代～現代(通史編1-3)

建物が語る 日本の歴史

海野 聡著
2400円

社会と建物の関わりに光を当てた
新しい日本建築史入門。図版多数。

源氏長者

武家政権の系譜

岡野友彦著 征夷大將軍＝源氏の
誤解を解き、「武家王権」の真実に
迫る注目の一冊！ 2400円

松井友閑

(人物叢書29)

竹本千鶴著 信長の唯一無二の側
近として、縦横無尽に活躍した生
涯を描く初の伝記。 2300円

植民地遊廓

日本の軍隊と
朝鮮半島

金 富子・金 栄著 3800円
公娼制がなかった朝鮮に、いかに
日本式「遊廓」が移植されたのか。

歴史文化ライブラリー

全冊書下ろし 各1700円

書物と権力

前田雅之著 中世文化の政治学
知られざる書物の価値に迫る！

考証 東京裁判

戦争と戦後を読み解く

宇田川幸大著 判決から70年。
何が裁かれ、何が裁かれなかったか。

吉川弘文館

〒113-0033・東京文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151／価格は税別

書籍の翻訳出版率が最も高いという点である。この数字は、知識の再創造が韓国国内で充分に行われていないことの顯れともいえるだろう。文章読解力が低くなる直接の理由は読書をしないことにある。知識の共有が社会的な資産となり、競争力ともなる時代を生きた韓国の知識生産者(著者)や消費者(読者)、知識の媒介者(出版産業従事者)にとって憂慮すべき統計である。

韓国の読書人口の「学術・専門書」の選好度は、六分類のなかで平均五位(五・八%)、購買率は平均六位(六・四%)と低く、心配な水準である。しかし、「人文教養書」の選好度と購買率は平均二位(二四・七%、一二・八%)であり、「学術・専門書」のテキストで充足できない専門知への欲求を代替しているといえるだろう。

一般読者にとっての「学術・専門書」は、専門性はあっても、退屈かつ複雑で、興味もなく、その有用性まで疑わしい書物と認識され、出版市場から除外されるのかもしれない。読者は「学術・専門書」の読書を、興味や面白さ

繋がる知的遊戯と考えているが、生産する出版人、特に大学出版人は、より広い読者に向けて意思疎通を図る考えのない方言のようなテキストを市場に吐き出しているのだ。これは上述のように、大学出版部の著者の多くは研究者であるため、一般読者に向けて書くというより、専門の学者間の狭い範囲内で書くことが普通であることによるだろう。では、読者と円滑に意思疎通できる「学術・専門書」のテキストを書くためには何が必要か。

第一に、「読者に対する認識と態度を変えなければならぬ」。すべての文章は、読者に読まれることを前提として書かれるが、「学術・専門書」のテキストの多くが、著者の立場から一方的に書かれる自己完結的な文章ばかりである。以下は「著者」がどうあるべきかを示す一文で参考になる。「文章とは、著者がしたい話、重要だと思ふ話、知っている話を書いて完成するものではない。著者は会話者として、その文章のどの位置に自らが立ち、読者とどんな関係を築くべきか、読者をいかに招き、関心を呼び起こ

し、彼らの積極的な思考をどう支援するのかを考える必要がある。その文章に読者がどんな反応を示すのかを悩みながら、読者と会話するように書く必要がある」(ジョン・ヘスン『読者と会話する文章』、社会評論アカデミー、二〇一三年)。

またウンベルト・エーコの「知識人」の定義も参考になるだろう。「知識人が、言葉だけで働く人を意味し、手を使って働く人を除外するならば、銀行員は知識人であり、ミケランジェロは知識人ではないことになります。そして、今日では、コンピュータの存在によって、すべての人が知識人ということになるでしょう。ただ、私は、知識人とはその人の職業や社会階層とはまったく関係がないと思います。私の言葉でいえば、新しい知識を創り出す人であれば誰でも知識人なのです。ある農民が、自分で改良した新しい接ぎ木の技術でりんごの新たな品種を開発したら、それは知的な生産行為といえるでしょう。一方で、ハイデガーについては、同じ講義を一生繰り返す人は知識人とは言い難い。批判的な創造性、すなわち、私たちの現在の知的行為を批判的に検証したり、その行為を為すためにより良い方法を創り出すことだけが、知識人の唯一の証なのです」(『作家とは何か』、クオン・スンヒョク、キム・ジンア訳、図書出版ダルン、二〇一四年)。

第二に、「著者は、自己完結的で権威主義的な文章は捨てるべきである」。書物ごとに読者層があるわけではない。テキストによって読者層が決定されるのである。研究者の

多くは読みやすさを考慮せずに自己完結的な文章を書く傾向がある。しかし、多様なマスメディアの中で生きる読者は賢明であり、著者を即座に分析し、評価し、飽きる。読者は書物に知識や情報を望むが、「興味」や「面白さ」をも期待し知的遊戯を楽しもうとする。読者の欲望に媚びる必要はないが、読者の期待を無視することもできない。

歴史学者のベク・スンゾンは、読者の期待について以下のように記している。「もし、私が今その本をもう一度書くなら、完全に別の本に変える。まず、すべての文章をできるだけ簡潔に書く。厳密な分析は諦めないが、読者が退屈に感じないように平易な書き方を選ぶ。引用文も入れて臨場感を出す。何よりも本全体が一つの完結された叙事詩として生命力を得るように、文章の流れを説得力のあるストーリー展開で再構成する。緊張した面持ちや厳肅さ、冷徹な学者の姿はすべて消す。私は、硬い内容でも面白く聞かせる身近な人に生まれ変わりたい」(『書くことの力』韓国マーケティング研究所、二〇〇五年)。

第三に、「編集者は、専門的な深さと幅広い教養、そして興味を誘発できる学術・専門書のテキストを企画しなければならぬ」。なぜ「学術・専門書」は売れないのか。出版マーケティングにとって未開拓の市場はあるのか。私たちはすでに、「学術・専門書」のマーケティングには、一般の出版マーケティングの法則が通じないことを知っている。いまは、「テキスト」に集中して、編集者本来の仕

事に注力すべき時である。編集者は著者の可能性を導き、しっかりと意志疎通を図りながら、執筆プロセスに参加し、著者をプロデュースしなければならない。編集を通して、「学術・専門書」のテキストを、時代の流れや読者の期待に寄り添うように拓いていくのだ。

アルビン・トフラーは、「obsolete」(無用の知識= obsolete (余計な) + Knowledge (知識) の合成語)、すなわち陳腐な知識に言及しながら、次のように語る。「変化の速度が速くなるにつれ、知識が「無用の知識」に変わる速度も速くなる。知識を更新しつづけないかぎり、長い間に蓄積された知識の価値も低くなる。あるデータベースを完成させた時には、すでにその知識は時代遅れのものとなっていることもありうる。[……] その結果、今日の企業や政府、個人は知らず知らずのうちに、以前よりも無用な知識、すなわち変化によって誤りとなった考えや仮定を根拠として、日々の意思決定を下すことになるのだ」(アルビン・トフラー『富の未来』、青林出版、二〇〇六年)。

時代の流れに應えず、再創造されない知識は、古びて役に立たなくなるのみならず、ある種の危険を孕むと指摘したのである。

大学出版社の歴史は長い。これまで変わることのなかったその歴史に、いま変化を試みなければならない。ある出版関係者は、「学術・専門書が、読者とうまく意志疎通できなかったことが、国民の教養の増進に逆行する結果をもたらした」と批判した。上述の統計資料を見ても、学術の知や専門知をより広い読者に拓くことができなかった私たちは、この批判を真摯に受け止める必要があるだろう。

「学術・専門書」の出版を担う私たちはいま、読者から見放されようとしている。国の読書政策や読書文化の醸成の遅れ、学術・専門書のテキストを理解してくれない読者を嘆いていても仕方がない。私たちはいま、読者を客観的に分析し、彼らに届くような有用性と興味を兼ね備えたテキストを創っていくべきなのである。

世界不平等レポート2018

ピケティ他編 『21世紀の資本』を生んだデータベースをもとに、最新動向を全世界の研究者が分析する。徳永・西村訳 ¥7500

予測不可能性、あるいは計算の魔

あるいは、時の形象をめぐる瞑想エクランド 数学は「時」をいかに捉えてきたか。予測可能な宇宙と計算不可能な宇宙、その幾何学を語る。南條郁子訳 ¥2800

ヒトラーのモデルはアメリカだった

法システムによる「純血の追求」ウィットマン アメリカの法制度が、ナチのニュルンベルク法を生み出した。「純血の追求」の共犯関係。西川美樹訳 ¥3800

人体の冒険者たち

解剖図に描ききれないからだの話フランス 小説のような症例に古今東西の逸話。「読む人体図鑑」とも呼べる医療エッセイ。鎌田昉月訳 原井宏明監修 ¥3200

映画『夜と霧』とホロコースト

世界各国の受容物語

ファン・デル・クナーブ編 ホロコーストを初めて描き、世界を震撼させたアラン・レネ『夜と霧』の物語。庭田よう子訳 ¥4600

異議申し立てとしての宗教

ヴィシュワナタン 宗教に世俗社会への批評性を読み取り、文学からオカルティズムまで縦横に論じる。三原芳秋他訳 ¥6000

アフリカ眼病とドイツ植民地主義

磯部裕幸 近代医学はいかにして「原住民の福祉」に貢献することができるか。熱帯医学による感染症制圧の夢と現実。¥5400

東京文京本郷
2丁目20-7
tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税別)
www.msiz.co.jp

みすず書房

学術書・専門書の読者開拓——大学出版部になにができるか

小林直之（東北大学出版会）

読者と直接つながる

東北大学片平キャンパス近くに店を構える「金港堂」は、明治四三年の創業の老舗書店だ。昔ながらの佇まいの店舗は仙台市民に深く愛されており、商店街に流れるお店の宣伝ソングは、多くの仙台人が歌える。おそらく、両親が私にはじめて買ってくれた本も、この金港堂で買った本ではないかと思う。

八年前、その金港堂から人づてに連絡があった。「店の一〇〇周年のイベントを考えている。地元出版社の編集者で、何かやってくれないか」。早速、仙台市内の編集者仲間二人と会い、作戦会議をした。

著名な作家を招いて講演会をすれば話題にはなるが、その一回で終わってしまう。できれば地元に関係するテーマで金港堂一〇〇周年を祝い、仙台人に印象を残せるような

企画がないか……。そう考えた結果、仙台にかかわる本を一〇〇冊選んで発表しようということになった。題して「仙台人ならこれを読もう！ 仙台を楽しむための一〇〇冊」である。

藩祖の伊達政宗公にかんする本のほか、教科書でお馴染みの島崎藤村や土井晩翠の作品も仙台に関わりがある。もちろん東北大学関係者の本、たとえば平成一四年にノーベル化学賞を受賞した田中耕一氏の本もある。さらに、現代私小説の第一人者である佐伯一麦氏や人気作家の伊坂幸太郎氏も、仙台在住の現役作家だ。

こんな具合で本をピックアップしていくと、あっという間に一〇〇冊に達した。この一〇〇冊リストを小冊子にまとめて金港堂の店頭で発表・配布し、店内でトークショーもやった。リストは思いのほか好評で、地元の図書館が選書に活用してくれたりと、地元紙で取り上げてくれたりと、

老舗書店の一〇〇周年を記念するものになった。

「ベストテン」をとおして

「仙台の一〇〇冊」の評判に気をよくした我々は、仙台の読者と直接つながる方策を新たに考えた。思いついたのが、三人による本の年間ベストテンを発表するというものだ。「読んで面白かった」という条件だけで、その年の新刊本一〇冊を選んで発表する。これをまた冊子化して市内の書店に配り、来店客に無料配布してもらった。

第一回のベストテンで私は、渡辺浩著『日本政治思想史十七〜十九世紀』（東京大学出版会、二〇一〇年）を第一位に選んだ。以下は、冊子に書いた文章である。

この本は三回繰り返し読んで読んだ。それでもまだ面白い。たぶん、これから何度も繰り返し読むだろう。個人的に、文句なしの今年ナンバーワンの本である。江戸から明治までの日本のかたちを政治思想史から読む

ことが、こんなにも刺激的で且つ心躍ることとは！

学術書・専門書の範疇にある作品ではあるが、読者を同分野の研究者のみに限らない。短い文章と歯切れのよい言葉で綴られた近世日本の案内書であり、江戸モノ時代小説を読むときの（そして、書くときの）必携の教科書である。

たしかな視点と思考に裏付けされた見解が、わかりやすく、丁寧に噛み砕いて述べられている。心の底から「良書である」と人に薦めたい一冊だ。

拙文には目をつぶっていたくとして、「学術書・専門書の範疇にある作品ではあるが、読者を同分野の研究者のみに限らない」の部分は、大学出版人として責任をもって書いたつもりである。学術書・専門書ということにハードルを感じないでほしいことを、きちんと読み手に伝えたいと考えた。本書のような学術書・専門書を読めば、読書の面白さを大いに感じられるということを広くアピールして

藤原書店

医師が診た核の傷

現場から告発する原爆と原発

広岩近広 絶対に「核と人類は共存できない」。23人の医師が、実名で渾身の告発。 2200円

エロシマ

D・ラフェリエール 原爆が炸裂した朝、一組の若い男女が広島で愛し合っている。交錯する性と死。 立花英裕訳 1800円

遺言

（増補新版） 読者のために

鶴見和子 生誕百年記念復刊。『天皇皇后謁見』秘話』等を大幅増補した決定版！ 2800円

看取りの人生

後藤新平の「自治三訣」を生きて

内山章子 姉の鶴見和子ほか、稀有な一族を「黒子」として見送ってきた90年の半生。1800円

（新版）近親性交とそのタブー

文化人類学と自然人類学のあらたな地平
川田順造編 近親性交はなぜタブーか？ 初の学際的インセスト・タブー論、待望の復刊。 2600円

モードの誘惑

山田登世子 「モードは殺されるためにある」。著者ならではの視点の凝縮した、時代を鮮烈に切り取るモード論を集成。2800円

横田喜三郎 1896-1993

現実主義的平和論の軌跡

片桐庸夫 最高裁長官も務めた国際法学者の安全保障論の全貌。根底を貫く思想とは。 3200円

月刊 機

B6変32頁 8月号 No.317
山田登世子／野口豊子／笠井賢一／マブ／青山／五百旗頭薫／木村汎／海勢頭豊／加藤晴久／中西進／中村桂子／横佐知子 ほか。
年間購読料2000円（送料込） ◎見本誌・ブックガイド呈 ＊表示価格税抜
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523
振替 00160-4-17013 TEL 03-5272-0301
ホームページ <http://www.fujiwara-shoten.co.jp/>

いくことは、我々大学出版人の使命であると思う。

「江戸モノ時代小説を読むときの（そして、書くときの）必携の教科書である」とは、ややアレنجが過ぎたかも知れない。しかし、学術書・専門書の読者よりもはるかに多い時代小説ファンを本書に引き付けることをねらった。私も時代小説を好んで読むが、「序章」にある、

「昔を探っていると、「本当にタイム・マシーンがあればなあ。十五分間でいいから町の様子を見てみたい。この人に会ってみたい」などと想うことがある。しかし、実は、我々はすでに高性能のタイム・マシーンを持つている。文字である。」

文字を通して、我々は、たとえば一〇〇〇年前の平安京の宮廷女性の、物憂い恋心に共感することさえ、ある程度はできる。四〇〇年前の戦国武士の、主君への屈折した心情を理解することも、ある程度はできる。そして、江戸のある屋敷の中で、丁髷を結った頭の中の優れた脳において展開された、当時の世の詳細な現状分析と政策提案を理解することも、ある程度はできる」(同書、五頁)

という魅力的でないざないの一文。この文章は、時代小説ファンにも間違いなく響くと確信を持った。

本書は、研究者や専門家だけでなく、藤沢周平や平岩弓

枝、池波正太郎、そして司馬遼太郎といった作家たちの作品を愛読する読者層にも必ずや受け入れられる。なぜなら彼らはまさに「文字という高性能のタイム・マシーン」で過ぎた時代を味わおうとする、知的好奇心あふれる読者人たちだからだ。

学術書・専門書の読書

学術書・専門書を読むことは「究極の読書」と言える。読者が本を読む動機の一つである「知らないことを知りたい」「分からないことを理解したい」という欲求と、著者が本を書く動機の一つである「まわりが知らないことを解明し、自分の言葉で説明したい」「分からないことをつきとめた結果を、本のかたちにした」という欲求は、少し似ているかもしれない。即ち、本を読む側と本を書く側は、同じような知的好奇心を持っているのだ。その両者が出会う幸せな場所の一つが、「究極の読書」、つまり学術書・専門書の読書である。

もちろん、知りたいことがあるとしても、すべての読者が、すぐに学術書を読むわけではない。そして、すべての学術書の著者が、広い読者層を想定しているわけではない。それでも、あることについて知りたいと思った時に、入門書から、新書や選書、その分野の定番書などに進み、やがて学術書・専門書にいたるという流れの読書が進めば、いつか両者は本をとおして出会う。知的好奇心を持つすべて

の人は、学術書・専門書の読者になり得るのだ。

読者が胸に抱く「知りたい」という気持ちと、知る手段として読書を選択してくれること。この二つがある限り、上質で味わいのある学術書・専門書は、それに応える資格と義務をまとう。これは、学術書・専門書の大きな存在意義の一つと言えるだろう。

大学出版人にできること

もしかしたら、このことをもっとも強く感じ、よく理解し、すでに行動に移しているのは、学術書・専門書に日常で接する我々大学出版人かもしれない。

大学出版の編集者は、原稿の中で著者が何を明らかにし読者に何を伝えようとしているのか、自身の目で見極めながら本づくりにかかわる。大学出版の営業担当者は、その本が大きな知の体系のどの位置にあるのか、自身の目で見極めて最も適した読者層へ一冊でも多く届けようと努める。この普段の業務は、自分では気がつかない様々なノウハウ

を自身の中に育てているはずだ。それを様々なかたちで活かしていくことは、学術書・専門書の魅力を広く伝えることにつながり、新たな読者開拓へと結びついていく。

慶尚大学校出版部の金鍾吉氏は、『大学出版』一〇九号に寄せた「未来の大学出版部がすべき19のこと」で、「読者に近づくための行動が必要だ」と提案している。いま、学術書・専門書の読者あるいは読者候補者は、どこにいるのか。彼らへの効果的なアピールは、どんなことが考えられるのか。どちらもすぐには答えが出ない問いだが、すでに日本の大学出版の仲間たちは、高いポテンシャルをもって行動に移している。

京都大学学術出版会の鈴木哲也氏は『学術書を書く』（京都大学学術出版会、二〇一五年）を共著で出された。名古屋大学出版会の橘宗吾氏は『学術書の編集者』（慶應義塾大学出版会、二〇一六年）を書かれている。どちらの本も大きな注目を集め、学術書・専門書の理解を多様な層に広めた。玉川大学出版部の森貴志氏は、大学の講師として若い学生

日本評論社
創業100年記念出版

憲法の価値を知ろう!

新装復刻版
みんなの憲法
日本評論社(編)
日本国憲法の理念や原理
憲法が私たちの生活にどの
ような役割をはたしている
のかをやさしく解説する。
初版1961年の復刊企画。



■本体1,600円+税

貧困の経済学 上・下

マーティン・ラヴァリオン [著]

柳原 透 [監訳]

貧困は歴史的にどう捉えられ、計測され、削減されてきたのか。古今東西の叡智を、世界的権威がまとめあげた話題の書、待望の全訳。 ■各本体3,800円+税

日本評論社創業100年記念出版

こころの臨床を語る

「こころの科学」対談・座談選

「こころの科学」編集部 [編]

通巻200号を迎える雑誌「こころの科学」の対談・座談会の中から特に貴重なものを編集。笠原 嘉・風祭 元／大塚恭男・中井久夫ほか ■本体2,600円+税

数学力で国力が決まる

藤原 洋 [著]

急速に進化するデジタル社会を生き抜くには何が必要か? 変化の本質を見極め牽引するために不可欠な数学・数理学の重要性を説く。 ■本体1,800円+税



日本評論社

〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4

☎03-3987-8621 <https://www.nipponyo.co.jp/>

たちに出版を教えていらつしやる。大学出版の編集者である森氏が、大学の教科として出版を教えるというのは興味深いことである。東京大学出版会の黒田拓也氏は、国内大手チェーンの書店が発行する広報誌に魅力的な読書ガイドを執筆されている。いずれの活動も、本来の編集者・出版人としての業務以外のかたちで、読者に近づく行動、あるいは学術書や専門書に読者候補者をいざなう試みと言えるだろう。これらは、すぐには答えが出ない問いの正答ではないかもしれないが、正答に限りなく近づく過程の、意義のある行動であることは疑いない。

学術書・専門書の読者に「なった」私

考えてみると、東北大学出版会に勤務する前の私は、学術書・専門書の読者ではなかった。それが、この一〇年ですっかり読書傾向が変わり、現在は学術書・専門書でも抵抗なく手にし、多少の苦勞は伴いながらも、その読書を楽しんでいる。この変化は、単に大学出版にかかわるようになったことだけが理由ではないように思う。

一つの本が、他のたくさん本から生まれ、さらに新たな本を生んでいくという「本の連環」。私はこのことを、大学出版人になって学んだ。これを知ること、読書が広がり、深まりを増した。そのきっかけは、渡辺先生の著作のような学術書・専門書の良書にたくさん出会ったことである。一冊の良書との出会いが、新たな良書との出会いへ

とつながり、絶えず連環していく読書の魅力。このことを広く確実に伝えられれば、私のような新たな学術書・専門書の読者を増やしていくことは、不可能ではない。

現代日本を代表する哲学者の一人である鷲田清一氏は、以下のように語る。

「アートにしても本にしても、いい作品は残像を残す」
「残像が残ったものは、十年後でもまた観たり読んだりしたくなる」

（大澤聡『教養主義のリハビリテーション』筑摩選書、二〇一八年、六三―六四頁）。

「残像が残る本」は、多くの読者に支持される。もちろん「残像が残る学術書・専門書」は、これまでにもたくさんあり、これからもたくさん生まれるだろう。その誕生を手助けし、大きく育てていくことは、これからも変わらぬ我々大学出版人の使命である。そうして学術書・専門書の読者や読者候補者に近づいていかなければならない。

前述の「ベストテン」は現在も続いているが、大学出版部の本を選ぶことも多い。仲間たちの本を選ぶことに、気遣いや忖度は一切ない。良い学術書・専門書に出会えた喜びと、「残像」を残すかもしれない本の良さを、知的好奇心あふれる読者人に伝えていきたいという願いのみである。

大学出版部ニュース

表示価格は税別です。

真の友好を持続すること

七月一八日から福岡市アクロス福岡で第三六回日韓大学出版部協会合同セミナーが開催された。今回のセミナーのメインは、東京大学名誉教授渡辺浩先生のご講演であった。近世における朝鮮通信使をテーマにして、一世紀半以上続いたこの使節派遣と日本側の接待という平和の仮面の裏に、じつは軽侮と不信をはらんだ齟齬が存在したことを史料から探してこられた。平和の交流が必ずしも友好を保証するものではなく、内側から破壊していく要因を蓄積するおそれもあるのだと言われれば、それはこの日韓セミナーへの警鐘にならないとは言えない。毎回セミナー後に報告記事を載せる『大学出版』をたどってみると、「八〇年頃、韓国（）李会長は韓国各大学の出版部長がすべて教授で実務にタッチしていないことから、日本の現場中心主義に注目し、あえて実務者レベルの交流を提唱されたのであった」（八七年春号、筆者注・推定するにこれがセミナーの由来であろうか。なお同記事には、セミナー参加にあたって、韓国併合を正当化したと当時内外で非難された藤尾正行文相の発言が気にかかる、ともある）「今年の慶州セミナーは会期がフランクフルト・ブックフ

エア「日本年」と重なったので、協会の正副幹事長はドイツに渡り、慶州へは三名の参加にとどまった。主題発表では通訳も翻訳もなくハングルのみで、われわれはほとんど理解できなかった。今回は期間も短く、ことばやセミナー運営の問題もあつて韓国の参加者と十分な語り合いができなかったのが心残りであった」（九一年春号、筆者要約）

これでは十分な友好とはいえない気がするが、その後はこの経験を活かして代表団の増派につとめたり（事実九六年には一八名の派遣に）、会場へ同時通訳機を導入したりしている。かつて一元的であった協会間の情報発信のあり方が、今は日韓の個人メンバーがたとえばフェイスブックで直接つながることを可能にしており、現にその例を耳にしている。こうしたインターネットとテクノロジーの進展による個人主義の魔法が与えられたとして、ただそれで樂觀ができるだろうか。われわれが嫌う古いジメジメした全体性（共同幻想）は、テクノロジーとは本質が違い、何かと引き換えに簡単に消滅するというわけではあるまい。講演で指摘された、日々意識的であれというところが大事で（慢心するな、と解したが）、それが当面の方法であるかもしれない。

北海道大学出版会

▼押野武志・谷口基・横濱雄二・諸岡卓真編著『日本探偵小説を知る―一五〇年の愉楽』(四六判・三五六頁・二八〇〇円) 明治から現在まで、日本のミステリの変遷を読み解き、その愉楽を伝える論文集。ミステリ作家との座談会も収録。

▼鈴木幸人編著『恋する人間―人文学からのアプローチ』(四六判・二九六頁・二六〇〇円) 何かに夢中になっている状態や他者との関わり合い等も含め、古今東西の文学や芸術、思想や歴史、社会科学等の知見から「恋」のあり方に迫る。

▼田村慶子編著『マラッカ海峡―シンガポール、マレーシア、インドネシアの国境を行く』(Ｂ５判・七二頁・九〇〇円) かつて同じ王国に属していた三つの地域の分断と変貌を描く。今の日本の果たしている役割も紹介する。

▼仁平尊明著『The Regional Geography of Japan』(四六判・二六六頁・二八〇〇円) 日本の地誌を都道府県ごとに英語で簡潔に紹介。それぞれ自然、歴史、文化、人口、交通、産業を記述。訪日外国人に英語で日本を紹介する際や、仕事や学業で海外を訪れる際にも大いに役立つ。

弘前大学出版会

▼アウトプット展実行委員会編 岩井康頼監修『どう見える? 生きる跡 アート―青森県特別支援学校発達形作品展の記録』(Ｂ５判・一〇四頁・二三〇〇円) 特別支援学校の子ども達による魅力的なアート作品の展覧会記録。自由な感性のはばたきを豊富なカラー写真とともに紹介。生きる跡がそこにある!



▼大熊洋揮著『脳卒中予防ハンドブック―アタリを防ぐ基礎知識』(Ａ５判・八二頁・一八〇〇円) 全国有数の脳卒中多発県である青森県では、古来、脳卒中を「アタリ」と呼び畏れてきた。しかし、アタリは、原因を理解し、適切な予防法を実践すれば防ぐことができる病気である。脳に関する医学の専門家が、青森県の実情を踏まえながら、脳卒中の予防法をカラーのイラスト、写真、表を用いて解説する。健康と長寿を目指すすべての方々のための待望のハンドブック。

東北大学出版会

▼関根明伸著『韓国道徳科教育の研究教科原理とカリキュラム』(Ａ５判・六〇六頁・七〇〇〇円) 解放から一九七〇年代までの膨大かつ歴史的な一次資料を綿密に分析・解釈し、韓国道徳科教育の本質究明を試みる意欲作。

▼一島英治著『日本の国菌 コウジキンが支える社会と文化』(四六版・九四頁・二〇〇〇円) 日本に麹菌あり。酵素科学の専門家でコウジキン研究の大家である著者が、学術・社会・文化の様々な面から日本人とコウジキンの深い関わりをひもとき、日本の「国菌」とされる由縁を明らかにする。

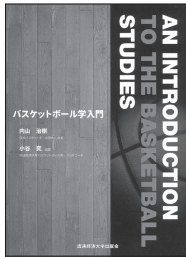
▼尾園絢一著『パーニニが言及するヴェーダ語形の研究 重複語幹動詞を中心に』(Ａ５判・二七四頁・四〇〇〇円) インド文献学、インド・ヨーロッパ比較言語学における第一級の資料である、古代インドのバラモン教聖典「ヴェーダ」とその言語。インド・ヨーロッパ語比較言語学、ヴェーダ研究、パーニニ文法研究の最新の成果を取り入れ、パーニニが念頭においていた「言語は何か」という長年の課題に取り組む。

流通経済大学出版会

▼中谷秀樹編著・清水久仁子共著『観光と情報システム「改訂版」』（A5判・二六四頁・一八〇〇円）観光とは環境の異なる人との交流や社会での体験で創造される様々な恵みを楽しむこと。本書は観光産業を目指す学生、ビジネスマン必読の書である。



▼内山治樹・小谷究編著『バスケットボール学入門』（A5判・二四八頁・一五〇〇円）本書はバスケットボールの分析・究明を通して専門性をより一層高めたいと願う人のために、導かないし道標の役割を担う入門書である。



聖徳大学出版会

▼塩美佐枝・藪中征代・古川寿子・古川由紀子・川並珠緒・東川則子著『言葉の発達を支える保育』（B5判・一三四頁・一六〇〇円）今日から実践できるヒントが満載！幼稚園教育要領の改訂で、言語活動の充実が特記された。本書では、言葉を獲得していく過程での人間関係、体験との関わり、そして子どもたちの思考と言葉に注目。具体的な指導事例を多く盛り込み、現場にも即した実践的な一冊。



▼聖徳大学特別支援教育研究室編『改訂版 一人ひとりのニーズに答える保育と教育—みんなで進める特別支援—』（A5判・二一八頁・一五二八円）初学者のための特別支援教育本。

▼川並知子・広瀬知里著『子どもと親のためのおりがみアイデア』（B5判・一二八頁・一五〇〇円）

幼児から大人まで楽しめる折り紙遊び本。

▼川並知子著『さくら紙あそび』（B5判・六四頁・六五〇円）

さくら紙（お花紙）のあそび方の決定版。

慶應義塾大学出版会

▼シリーズ「世界を読み解く一冊の本」（第一期、全一〇巻）名著を読むための入門書シリーズ。初回配本は、安田敏朗『大槻文彦「言海」』（四六判、二〇八頁、二〇〇〇円）。



時に、聖典として崇められ、時に、焚書や発禁をうけた書物の運命は、つねに私たち人間とともにありました。

私たちにとって、本とはいったい何なのでしょうか？ 今後、本はどのような運命を辿っていくのでしょうか？

本シリーズは、その問いを、何十年、何百年と読みつがれている世界の名著——とりわけ本について問題提起をする本——をひもとくことによって明らかにしたいと考えています。

専修大学出版局

▼専修大学人文科学研究所編『災害その記録と記憶』(A5判・二六四頁・二八〇〇円) 地震をはじめとする天災、人災としての戦争、繰り返される「災害」はいかに記録され記憶されたのか。人間は災害をどのように認識してきたのか。考古学、自然地理学、哲学、歴史学と多岐にわたる専門家の研究から考察する。

▼西原利昭著『統合報告におけるインタンジブルズの情報開示と情報利用』(A5判・二二〇頁・二六〇〇円) 価値創造の源泉がインタンジブルズ(無形資産)に移行している今日、統合報告を活用したインタンジブルズに基づく価値創造プロセスの情報開示は、ステークホルダーとの対話を通して、企業の戦略策定への情報利用にも役立つ。日本企業の統合報告の事例をもとにした管理会計から提言する。

▼小森田龍生著『過労自死の社会学——その原因条件と発生メカニズム』(A5判・二二四頁・二六〇〇円) 好評につき増刷出来。

大正大学出版会

▼大正大学地域構想研究所編『地域人』(A4判・平均一四四頁・一〇〇〇円・毎月十日発売)「現代社会の最優先課題は、地域創生にある」をテーマに、地域の実態理解と再生の方法論をさまざまな視点から紹介する地域情報満載の総合情報誌。地域特集では、現地取材をもとに、物事を経済的視点だけから見るのではなく、多様な文化、歴史、暮らしに至るまでを掘り起すことを目指している。一方で、地域創生とは何かを豪華連載人による、人口、産業、食文化、リノベーション、ふるさとと信仰など、社会から心の問題まで幅広い提言を毎号掲載する。

第三六号 特集「暮らしやすい町、美しい村」北海道・美瑛町、鳥取県・智頭町、埼玉県・小川町、京都府・伊根町、岡山県・矢掛町、長野県・大鹿村他／持続する地域の理由を探る「千年村プロジェクト」他。



玉川大学出版部

▼G・ガーニー、D・ロピアノ、A・ジンバリスト著／宮田由紀夫訳『アメリカの大学スポーツ―腐敗の構図と改革への道』(A5判・三二四頁・四二〇〇円) 大規模に商業化したアメリカの大学スポーツの問題点を検証しつつ、教育活動としてのスポーツを取り戻す方策を提案する。日本版「NCAA」(全米学生体育協会)設立に向け、新たな視点を提示。

▼今田由香著『トミ・ウンゲラーと絵本―その人生と作品』(A5判・三二〇頁・四二〇〇円)「すてきな三にんぐみ」をはじめ数々の作品をあらわし、国際アンデルセン賞画家賞を受賞した絵本作家の人生と作品を紹介。トミ・ウンゲラー美術館の協力のもと、一五〇点あまりの図版を掲載。年譜など資料満載。

▼小川直之・服部比呂美編／高桑幸次・合田洋介絵『玉川百科 こども博物誌』日本の知恵をつたえる』(A4判・一六〇頁・四八〇〇円)日本人のくらしは古くからつたわる知恵であふれている。ごはんのたきかたや、とうふ屋さんのしごとなど、風習や習慣・技を豊富なイラストで紹介。日本の知恵を感じてみよう。

中央大学出版部

▼武智秀之著『公共政策の文脈』（A5判・二六〇頁・三〇〇〇円）公共政策の文脈を理解するための分析的枠組みとして文脈主義、背景理論、規範理論、組織理論の資源依存的アプローチを駆使して、公衆衛生、消費者保護、薬のインターネット販売、農業政策、景観まちづくり、社会福祉、農地改革、経済改革という政策分野を分析すると共に、資源依存、不確実性、条件適合性という政策文脈を再定義する。本書は、従来の文脈主義や背景理論を条件付けし、理論の再構築を提示する。

▼福島 弘『公安事件でたどる日本近現代刑事法史』（A5判・七四六頁・五八〇〇円）、日本刑事法の歴史を総合的に整理概観した法律専門書。明治維新から一五〇年。犯罪を捜査し、犯罪者を刑事裁判にかけ、処罰するための刑事法は、いかに整備され、運用されてきたのか。具体的な公安事件の歴史をたどりながら、刑法や刑事訴訟法といった制定法の整備、裁判の中で創造された判例法の展開を追い、裁判員裁判制度に至るまでの日本刑事法の歴史を追った力作。

東京大学出版会

▼小坂井敏晶著『神の亡霊―近代という物語』（四六判・三三六頁・二八〇〇円）責任ある主体として語りふるまう我々の近代は、なぜ殺したはずの神の輪郭をいつまでも経巡るか。混沌とする現代の問題に、自分で思考することを試みる。

▼東京大学キャンパス計画室編『東京大学本郷キャンパス―140年の歴史をたどる』（B5変判・二二四頁・二八〇〇円）建造物とキャンパスの成り立ちからみた東大案内。二〇世紀初頭の古写真や数々の建設資料等の貴重な史料が満載。

▼『近代と現代の間―三谷太一郎対談集』（四六判・二五六頁・二九〇〇円）日本の近代をどうとらえるか。幕末・維新から現代まで、歴史・政治・経済・憲法・学問をめぐる縦横無尽に語り合う（対談者：御厨貴、松尾尊兌、脇村義太郎、神田真人、岡義武、樋口陽一）。

▼久世濃子著『オランウータン―森の哲人は子育ての達人』（四六判・一九六頁・三〇〇〇円）アジアの熱帯雨林で暮らすオランウータンの母親たちの育児から、ひとりで生きていてもけつて孤立はしないユニークな社会がみえてくる。

東京電機大学出版局

▼日本画像学会編『デジタルプリンタ技術 改訂 インクジェット』（A5判・三〇八頁・三三〇〇円）インクジェット技術の適用市場は紙メディアを中心とした市場から紙以外のメディアを扱う市場へと拡大している。インクジェットの基本技術の解説に加えて、市場変化に対応してきた新技術についても解説している。

▼浅川毅著『コンピュータ工学の基礎』（A5判・二二四頁・二六〇〇円）はじめてコンピュータ工学を学ぶ人向けにまとめたテキスト。コンピュータの発展史から動作原理までを詳しく解説。全一章構成で、演習問題と解答を掲載。教科書として最適。

▼松本隆男・吉野隆幸著『通信工学の基礎』（A5判・二一六頁・二六〇〇円）はじめて通信工学を学ぶ人向けにまとめたテキスト。全一章構成とし、通信工学を体系立てて学べる。各章には演習問題および詳しい解答を掲載。前半でアナログ通信、後半でデジタル通信について学習できるようまとめた。通信工学の理論とシステムに関する基礎知識が習得可能。

法政大学出版局

- ▼賀茂道子著『ウォー・ギルト・プログラム―GHQ情報教育政策の実像』（A5判・三〇〇頁・五二〇〇円）太平洋戦争の真実を教え戦争の有罪性を自覚させようとした占領政策を検証する。
- ▼牧野雅彦著『アレント『革命について』を読む』（四六判・三五八頁・二八〇〇円）フランス革命とアメリカ独立革命の比較で知られる問題の書を平易な語り口で明快に解説し、完全読解を実現する。
- ▼森一郎著『ハイデガーと哲学の可能性―世界・時間・政治』（四六判・四五八頁・四二〇〇円）ハイデガー研究を牽引する著者による、三〇年間の総まとめをなす哲学論集。〈愉しい学問〉の実践。
- ▼S・A・ロイル著 中俣均訳『島の地理学―小さな島々の島嶼性』（A5判・三四四頁・四四〇〇円）境界を限られた島々ならではの自然と人間社会との関わりを総合的に描き出す島嶼地理学の決定版。
- ▼網谷壮介著『共和制の理念―イマヌエル・カントと一八世紀末プロイセンの理論と実践』論争（A5判・三七二頁・五〇〇〇円）政治変革を構想する実践家としての新たなカント像を提示する。

武蔵野大学出版会

- ▼佐藤佳弘著『パワーアップ版』わかる！ 伝わる！ プレゼン力（A5判・一八四頁・一八〇〇円）プレゼンテーションにはコツがあり、それがわかれば誰にでもできるようにになります。大学でプレゼンテーションの授業を担当してきた著者が、すぐに活用できるテクニクをわかりやすく解説します。



- ▼土井隆司著『気づきが導く―成功！ キャリアデザイン』（A5判・二一六頁・一六〇〇円）自分のこれまでの人生に気づき、自分のこれからの可能性に気づくためのキャリアデザインブック。英文対応なので留学生にもオススメ！
- ▼三田誠広著『ここらにとどく歎異抄』（A5判・二四八頁・一八〇〇円）可能な限りわかりやすい言葉で解説した「超口語訳版の歎異抄」。日本の仏教がよくわかる「仏教の歴史」付き。

武蔵野美術大学出版局

- ▼津村耕佑『賞味無限―アート以前フアッション以後』（B5判変形・一六〇頁・予価二四〇〇円）
- フアッションデザイナー津村耕佑が、都市型サバイバルウェアFINAL HOMEを発表したのは一九九四年のこと。「非常時に対応する衣服のあり方」というアプローチは、大量消費と廃棄が進む社会への警告として高い評価を受けた。以来、細胞分裂をモチーフとしたPuzzle Ware（パズルウェア）やニピースの型紙をフアスナーで繋ぐOna（オンエア）など、独自の造形理論とスタンスで作品を発表する。二〇一三年に森美術館で開催されたLOVE展ではPuzzle Wareに美の遺伝子を託した幻想的なコスチュームを展示した。
- フアッションデザイナーという枠を超え、生活とクリエイションの結びつきを追求する津村の作品と行為を通して、現実生成する「フアッション」という現象」を考察し、フアッションとアートの関係、さらにそれらを含意するクリエイティブな行為について考える刺激的でクールな一冊（十一月発売予定）。

明星大学出版部

▼明星大学保健体育部会編『子どもの体育指導のエッセンス』(A5・一八〇頁・一八〇〇円) 小学校の体育の時間でサッカーを指導するとき、次のようなことを考える必要があります。「子どもの身体はどのように成長・発達するのだろうか」「どうやったら、運動がうまくなるのだろうか」「サッカーが苦手な子どもが楽しんで授業に取り組むには、何が必要なのだろう」「サッカーって、ほかの種目と比べてどんな特徴のあるスポーツなのだろう」「そもそも、どうして学校で体育をする必要があるのだろうか」。これらの問いは、皆さんが実際に体育・スポーツの指導をどのように実践してゆけばよいのかを考えるために、避けて通れないものです。それらは体育・スポーツ指導の「エッセンス」本質なのです。これらの問いの答えを、自分で探していくためのヒントを本書は用意します。



早稲田大学出版部

▼李慧敏著『早稲田大学エウブラクシス叢書』『日中電力産業の規制改革』(A5判・三一八頁・四〇〇〇円)

かつて電力産業は、日中両国において厳しい政府規制の下に置かれてきた。しかし、近年日本では、発送電分離など規制緩和が進められている。一方、中国はいち早く電力産業の規制緩和に取り組んできたが、自由化への過程は必ずしもうまく進んでいないのが実情である。

日中両国における電力産業自由化の歴史と現状を分析するとともに、電力産業のような寡占産業における事業規制法と競争法の相互関係を考察する。



▼日本平和学会編『【平和研究】『信仰と平和』』(A5判・一八六頁・二二〇〇円)

不断に創的想像力を駆使して溢出するような平和価値が、どのような具合に安定的に「信の構造」へ接合するものなのか、真摯に平和を祈念するさまざまな信仰と通念化する「宗教」概念を超え、信仰と平和の未来を探る。

関東学院大学出版会

▼仙葉豊著『さまざまなデフォー』(四六判・四五六頁・三〇〇〇円) イギリス近代小説の起源に大きな役割を果たしたダニエル・デフォーは、曖昧な作家だといわれる。デフォーはさまざまな仮面を付け、さまざまな声を借りて、数多くの政治的パンフレットや小説を書いた。本書は、そのような、さまざまなデフォーの小説の多様性を追究する。序章「非国教徒処理の近道」と曖昧なるデフォー／第1章 身の上相談と小説の起源／第2章 幽霊実話「ヴィール嬢の幽霊」／第3章 デフォーにおけるフィクションの始まりと終わり／第4章 クルーソーとガリヴァー／第5章 疫病小説「ペスト」／第6章 「モル・フランダース」のカズイストたち／第7章 「カーネル・ジャック」とピカレスク小説の変貌／第8章 アンチ・ロマンスとしての『シングルトン船長』／第9章 「ロクサーナ」と悪魔の誘惑／「ジョンナサン・ワイルド」と犯罪小説



東海大学出版部

▼川合楨次・谷田一三 共編『日本産水生昆虫 第二版―科・属・種への検索』(B5判・一七五二頁・三八〇〇〇円)
最新の分類知見に基づいた全面改訂版。日本産水生昆虫十一目一四一科を収録。双翅目、カゲロウ目、トビケラ目など成虫分野の分類検索もさらに充実、陸上昆虫の研究にも必須の図鑑である。



▼木村淳・小野林太郎・丸山真史編著『海洋考古学入門―方法と実践』(B5判・一七六頁・三二〇〇円) 人類の海洋環境への適応の歴史、海の利用や水上・水辺での活動の痕跡を考古学の方法を用いて研究する海洋考古学。本書は「海事・水中考古学」・「島嶼・沿岸考古学」・「動物考古学」に分け、その成果を解説する。
▼岩手大学宮澤賢治センター編『賢治学第5輯―賢治学の現代的展開』(A5判・二一四頁・二〇〇〇円)「現代」という複雑な時代背景に立脚し、賢治文学を現代のメディアから投影し多面的にとらえる。

名古屋大学出版会

▼湯澤規子著『胃袋の近代―食と人びとの日常史』(四六判・三五四頁・三六〇〇円) 人びとは何をどのように食べて、空腹を満たしてきたのか。一膳飯屋、残飯屋、共同炊事など、都市の雑踏や工場、喧騒のなかで始まった外食の営みを活写。社会と個人をつなぐ〈食〉の視点から日本近代史を書き換える。

▼堀田典裕著『モータウンのデザイン』(A5判・四二四頁・四八〇〇〇円) クルマと交通システムによって創り出された環境―現代の〈モータウン〉はどのようなカタチをしているのか。ガソリンスタンドや自動車工場、住宅から、高速道路、レジャーセンター、ショッピングモールまで、環境デザインの可能性を問う。
▼若尾祐司・小倉桂子編『戦後ヒロシマの記録と記憶―小倉馨のR・ユンク宛書簡』上・下(四六判・三三八頁/三四八頁・各二七〇〇円) 原爆市長・浜井の肉声から、見出される原爆症と医師らの葛藤、平和活動に身を投じた青年たちの歩み、さらには公娼制や闇市、やくざの抗争にいたるまで、戦後広島島の「復興」の実像を人々の息遣いとともに伝える。

名古屋外国語大学出版会

▼佐原秋生・大岩昌子著『食と文化の世界地図』(新書判・二三六頁・一二〇〇円) 世界を三四等分したら見えてきた、新しい地球の姿! 日本、東南アジア、ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカなど、どんな「食」が生まれ、育ち、交流してきたのか。人間に直結する食べ物・食べ方がコンパクトにまとめられた画期的な「食文化地理学」の誕生。「文学と食」などのコラムも充実(八月二五日発売)。
▼名古屋外国語大学編『世界教養72のレシビ』(新書判・二五二頁・一二〇〇円) 世界を多様性・多元性のなかで考えること―。名古屋外国語大学(亀山郁夫学長・ロシア文学者)が構築した「世界教養プログラム」は「教養知(人文、学際、社会)」の体系講座。本書はそのガイド。外国語、アート、国際政治、音楽、文学、ネット社会、アニメなど……人生を豊かにする教養カタログ(九月一日発売)。
▼城月雅大編著『まちづくり心理学』(A5判・二〇二頁・一七〇〇円) まちづくりの研究者と環境心理学者が考える理論的・実践的地域再生のエッセンス、住民の心を育む方法(九月二〇日発売)。

三重大学出版会

▼『芭蕉庵の終括』濱森太郎著、四六判
三三〇頁、三二〇〇円

口絵／序章 時流／第一章 深川寒夜／第二章 ある来訪者／第三章 組み替えられる旅行記録／第四章 最後の断片／第五章 妄言と謔言／第六章 幻覚素質者／第七章 熊の胆／第八章 冬の病魔／第九章 鳥は雲に帰る／第十章 まじめ―魔界を逃れて

四代将軍徳川家綱を補弼した保科正之、老中酒井忠勝、松平信綱、阿部忠秋らが推進した改革開放策は、単純化すれば市場の開放、物流の開放、金融の開放とそれに必要なインフラ整備だった。延宝八年（一六八〇）まで二十九年間続いたこの改革開放経済によって江戸は未曾有の発展を遂げ、世界的な都市になった。

ところが、ひ弱で権力マニアの徳川綱吉は、この賢臣達の改革開放策に大鉈を振るい、自己の政治資金を捻出するための市場機構を作り出そうとする。関係する大老・老中・若年寄の交替を計り、彼らの子孫まで僻地に改易する。お追従や告げ口が蔓延り、江戸は見る見る「魔界」の様相を呈する。

京都大学術出版会

▼トクヴィル／大津真作訳『合衆国滞在記』（四六判、五二〇頁・予価四五〇〇円）

新興国の民主主義が抱えていたさまざまな問題点、黒人への非道な扱いに関する報告など、「アメリカのデモクラシー」の著者が、同時期、東部諸州を旅して、合衆国成立過程の具体的な姿を観察し、生き生きとした筆致で記録した旅行記。

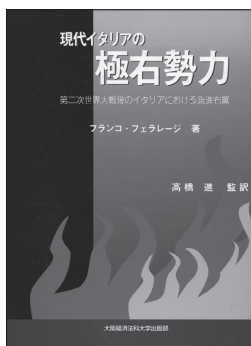
▼菅原祥著『ユートピアの記憶と今―映画・都市・ポスト社会主義』（Ａ５判・二九〇頁・三四〇〇円）抑圧的な社会主義体制に対する強烈な批判と同時に存在する切実なノスタルジア―ユートピアの記憶を鍵にポーランドの過去と現在に寄り添うことで、後期近代の矛盾に晒された人々の、失われたものへの追憶と未来への希望をめぐる心の奥底に迫る。

▼『環境工学への誘い』刊行委員会編『環境マインドへ未来を拓け―いのちをまもる工学の60年』（Ａ５判・三四二頁・二〇〇〇円）文字通り「いのちをまもる」衛生」学問として誕生し、安全な社会基盤を作ってきた人々。現場で問題と格闘し解決の術を探ってきた科学者たちの心意気を伝える。山極壽一氏推薦。

大阪経済法科大学出版部

▼フランコ・フェラレージ著／高橋進監訳『現代イタリアの極右勢力―第二次世界大戦後のイタリアにおける急進右翼』（Ａ５判・三一八頁・五二〇〇円）

民主主義国家であるはずのイタリアで、八〇年代まで極右勢力と連携した軍部や国家機関の中枢によるクーデターの計画があったこと、右翼にきわめて好意的で犯罪を隠蔽する裁判所や国家権力の存在等、イタリアのもう一つ顔を詳細に分析。本書は、「急進右翼」運動の歴史だけでなく、急進右翼の概念、その政治戦略、思想内容を深く分析している。次に国家諸機関、とりわけ軍、諜報機関、官僚、政治家と急進右翼との関係を裁判記録などを基に詳細に分析していることである。



大阪大学出版会

▼橋爪節也・竹中哲也編著『大阪大学総合学術博物館叢書15 精神と光彩の画家中村貞夫 揺籃期から世界四大文明を超えて』(A4判・一二四頁・二八〇〇円) 小磯良平に師事した異色の画家中村貞夫の図録と解説集。絵の具の質感を意識した重厚な画風から「富士」連作を経て「世界四大文明」シリーズに挑戦。

▼鷺田清一監修／高橋綾・本間直樹著『シリーズ臨床哲学3 こどものてつがく ケアと幸せのための対話』(四六判・四〇〇頁・二五〇〇円) 思考や議論の訓練ではなくケア的な哲学対話として、自分で表現することを学び、他人とともに考えるという経験から、自己や他者、言葉やコミュニケーションへの信頼を育み、困難を乗り越える力をつける。

▼掛下知行・糟谷正・中谷亮一著『理工系の量子力学』(A5判・三六四頁・二八〇〇円) 理工系の学生に必要な量子力学の学問背景にあるコンセプトを、短期間に十分に身に付ける。必要な数学と詳細な計算を記述。

関西学院大学出版会

▼クラウス・フォン・シュトゥツシユ著／加納和寛訳『神がいるなら、なぜ悪があるのかー現代の神義論』(A5判・二七二頁・二六〇〇円) 慈しみと愛に満ちた全能の神がいるならば、この世にはなぜ悪が存在するのか? この問いは「神義論」と呼ばれ、現代に至るまで、キリスト教神学の重要なテーマであり続けている。この問いに最新の神学が答える。

▼市川顕・高林喜久生編著／関西学院大学産業研究所発行／産経新聞大阪本社協力『関西の地域振興と国際化ー大学と新聞社の役割』(四六判・二五二頁・二〇〇〇円)

▼阿部敦著 K. G. りぶれっと NO. 45『新しい社会保障教育』政策と地域共生社会』(A5判・一三〇頁・一八〇〇円)

▼山本隆・武田丈著 K. G. りぶれっと NO. 44『社会起業を学ぶー社会を革新するしごと』(A5判・一六六頁・一五〇〇円)

▼ロバート・タリース著／白川俊介訳『政治哲学の魅力』(A5判・二八八頁・二九〇〇円)

関西大学出版部

▼森仁志著『越境の野球史』(四六判・二九六頁・一九〇〇円) ハワイの日系人最強チーム「朝日」の選手たちが、日米の架け橋になってプロ野球の誕生から発展期にはたした役割を描く。「朝日」出身の若林忠志、銭村健一郎、ウォーリー与那嶺……太平洋を渡る野球人たちのグローバルな生き方を活写。ハワイ(布哇)を基点に「日米」野球交流の歴史を「日布米」交流史として書き換える。



▼PACあらた有限責任監査法人著『自治体経営のイノベーション』(A5判・一九二頁・一八〇〇円) いま、地方自治体に必要なのは企業経営と同様の視点で「マネジメント」を行うことであり、まちの住民や企業も当事者意識を持つこと。地方行政のマネジメント改革について豊富なアドバイザー業務経験を持つPACあらた有限責任監査法人が関西大学で行った「地域の発展と民間のイニシアチブ」の講義内容を中心にまとめた一冊。

広島大学出版会

- ▼山崎勝義著『物理化学 Monograph シリーズ 下 第2版』(A4変型判・五一頁・一八〇〇円) Monograph II 特定の限られた分野をテーマとする解説あるいは研究論文。物理化学において著者が抱いた疑問を攻略する人気シリーズの第2版。二〇一六年刊。
- ▼安村誠司、神谷研二共編『Public Health in a Nuclear Disaster : Message from Fukushima』(B5判・四六〇頁・五三〇〇円)『原子力災害の公衆衛生』(南山堂)に広島大学の取り組みを加筆した全編英訳版。本書により事故後の福島での公衆衛生の取り組みを世界に発信する。二〇一六年刊。
- ▼松本陽正著『異邦人』研究』(A5判・二七六頁・二二〇〇円)アルベール・カミュ『異邦人』を緻密なテキスト読解や比較文学的アプローチなどを用いて、醸成された解釈の定説に修正を迫る。一般読者に向けては小説の読み方の一例を示し、小説読解のワクワク感を提供する。二〇一六年刊。

九州大学出版会

- ▼松原孝俊・岸田文隆編著『九州大学韓国研究センター叢書3 朝鮮通信使易地聘礼交渉の舞台裏―対馬宗家文庫ハングル書簡から読み解く』(A5判・四七二頁・九二〇〇円)
- ▼相馬伸一著『コメニウスの旅―へ生ける印刷術』の四世紀』(A5判・三九八頁・七八〇〇円) 第九回九州大学出版会・学術図書刊行助成対象作
- ▼根岸裕孝著『戦後日本の産業立地政策―開発思想の変遷と政策決定のメカニズム』(A5判・二五六頁・五二〇〇円)
- ▼清水雅大著『文化の枢軸―戦前日本の文化外交とナチ・ドイツ』(A5判・二六六頁・四〇〇〇円)
- ▼金田平一郎著／和仁かや監修『近世民事責任法の研究』(A5判・三八六頁・六二〇〇円)
- ▼S・オーレンゲ、M・ルンドクヴィスト編／松永正樹訳『アイデア・エバリュエーション―持続可能なビジネスを生み出す方法』(B5判・二九二頁・二〇〇〇円)

編集後記

▼ときおり学会の出張販売に営業のフリをして秘かに立ち会っていると、研究者のさまざまな声が聞こえてくる。曰く、「この本の造りはこれこれこうすべきだよ」「この本を訳すくらいなら、あの本を訳せばよかったのに」「もっとこんな本を出したらどうか」。云々。企画の持ち込みもある。そんなときは、「編集者に伝えておきます」と言って、「具体的にどうすれば良かったでしょう」「何を翻訳したらいいでしょう」「どんな企画があったらいいですか」なんて訊くと、皆さん、遠慮なく懇切丁寧に答えてくれるので、ナルホドと頷きながら、脳内に必死にメモしていく。編集者には言いにくいことも、営業にはわりと言いやすいようだ。学会の出張販売は、「読者」の顔を実際に見ることができると貴重な機会である。「研究費で買いたいけど、ここまでする高いとちょっとね」と買い控える方。「学生に研究倫理を教えたいけど、そんな本ないよね？」といった質問まである。こんな意見をくれる研究者の方々、「読者」の顔を思い浮かべながら、彼らに届く本を造りたい。

大同印刷(株)	〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20 TEL 0952-71-8550
ダイニツク(株)	〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 御成門ビル TEL 03-5402-1811
(株) 太平印刷社	〒140-0002 東京都品川区東品川1-6-16 TEL 03-3474-2821
(株) 太 洋 社	〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1 TEL 058-324-2111
(株) 竹 尾	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6 TEL 03-3292-3617
(株) 東京弘報社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34 TEL 03-3291-1771
(株)とうこう・あい	〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-12 サクセス銀座7ビル4F TEL 03-5148-7200
東光整版印刷(株)	〒135-0006 東京都江東区常盤2-12-15 TEL 03-3632-0801
東洋美術印刷株式会社	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-6-2 TEL 03-3265-9861
(株) トーヨー企画	〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7 TEL 075-411-8288
図 書 印 刷 (株)	〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36 TEL 03-5843-9700
(株) 日新広告社	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-12-10 喜久屋ビル3F TEL 03-3263-9431
(株) 日本経済新聞社	〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7 TEL 03-5255-2198
日本宣伝販売(株)	〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋3-278 TEL 048-620-1021
萩原印刷(株)	〒112-0004 東京都文京区後楽2-21-12 TEL 03-3811-4272
(株) 博 報 堂	〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F TEL 03-6441-6711
藤原印刷(株)	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5 TEL 03-3291-0191
(株) 平 文 社	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7 TEL 03-3944-0301
(株) 堀内印刷所	〒335-0034 埼玉県戸田市笹目3-11-5 TEL 048-422-0029
(株) 毎日新聞社	〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 TEL 03-3212-3340
誠 製 本 (株)	〒174-0042 東京都板橋区東坂下1-19-5 TEL 03-3967-3952
(株) 遊 文 舎	〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31 TEL 06-6304-9325
(株) 読売新聞東京本社	〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1 TEL 03-3242-1111
(株) ライトコミュニケーション	〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町11 岩田ビル5F TEL 03-3251-7571

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援くださる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同くださり、ご支援いただいている各社様をご紹介します。なお、「賛助会員」に関するお問い合わせは、協会事務局までお寄せください。

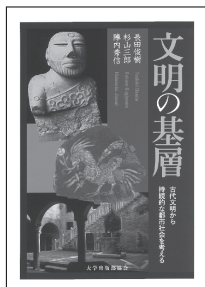
一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

(株) 朝 日 新 聞 社	〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 TEL 03-5540-7749
亜 細 亜 印 刷 (株)	〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154 TEL 026-243-4858
(株) ア ベ ル 社	〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408 TEL 03-3235-1360
尼 崎 印 刷 (株)	〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20 TEL 06-6494-1122
(株) A L E	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階 TEL 03-5652-8627
王 子 製 紙 (株)	〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5 TEL 03-3563-7072
カクタス・コミュニケーションズ(株)	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-4-1 TUG-Iビル4F TEL 03-6261-2290
(株)加藤文明社印刷所	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-15-6 K-STAGE TEL 03-3261-8281
城 島 印 刷 (株)	〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6 TEL 092-531-7102
(株)紀伊國屋書店	〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10 TEL 03-6910-0510
(株) ク イ ッ ク ス	〒456-0004 愛知県名古屋市中熱田区桜田町19-20 TEL 052-871-9190
(株) 糸 川 印 刷	〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7 TEL 03-3943-9811
(株)クリムゾンインタラクティブジャパン	〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 第2電波ビル4F TEL 03-3525-8001
港 北 出 版 印 刷 (株)	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7 TEL 03-5466-2201
三 松 堂 (株)	〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階 TEL 03-6823-5360
三 美 印 刷 (株)	〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8 TEL 03-3803-3131
三 立 工 芸 (株)	〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F TEL 03-3261-5171
三 和 印 刷 (株)	〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1822-1 TEL 026-285-2300
信 濃 印 刷 (株)	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11 TEL 03-3237-3601
(株) 渋谷文泉閣	〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1196-7 TEL 026-244-7185
(株) 眞 興 社	〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町19-2 TEL 03-3462-1181
新 日 本 印 刷 (株)	〒162-0801 東京都新宿区山吹町342 TEL 03-3269-3611
(株) 精 興 社	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9 TEL 03-3293-3021
創 栄 図 書 印 刷 (株)	〒604-0812 京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766 TEL 075-255-2288

大学出版部協会・ブックレット

大学出版部協会 発行／東京大学出版会 発売【2015年7月刊】

2014年5月に千代田区立立比谷図書文化館で開催された市民シンポジウム「文明の基層」(総合地球環境学研究所・京都大学学術出版会・大学出版部協会 主催／活字文化推進会議 後援)の内容をブックレット化しました。



長田俊樹
杉山三郎
陣内秀信

おさだとしき(総合地球環境学研究所名誉教授、神戸市外国語大学客員教授)
すぎやまさぶろう(愛知県立大学大学院特任教授、アリゾナ州立大学人類学部教授)
じんないひでのぶ(法政大学デザイン工学部教授)

文明の基層

古代文明から持続的な都市社会を考える

A5判・80頁／定価(本体1,200円＋税) ISBN978-4-13-003152-3

古代都市のイメージは大きく変わりつつある。インダス文明の諸都市のゆるやかなネットワーク、中米の古代最大都市テオティワカンでの新しい発見。人はなぜ都市を作ってきたのか、その歴史的基層を中世ヨーロッパのヴェネツィアと比較しながら、改めて都市の魅力と未来への可能性を探る。大学出版部協会ブックレット第3弾。

〈主要目次〉

第一章 インダス文明：ネットワーク都市——中央集権的文明観を覆す(長田俊樹)

「大河文明」は本当か?—広大なインダス文明／インダス文字とインダス印章／草原の遺跡、海岸沿いの遺跡—大河から離れて／砂漠の遺跡の謎／「城塞」と「パスポート」—都市ネットワーク論に向けて／墓から見えるもの—格差の不在／砂丘が先か、文明が先か／インダス文明は大河文明ではなかった—農業と水害の視点／古代文明観を見直す—「穀物倉」と「アーリア人侵入説」／文明の衰退について考える／ゆるやかなネットワークの存在／都市社会をどう見るか—中央集権的文明観からの解放

第二章 新世界最大の古代都市テオティワカン：英知の集積としての都市(杉山三郎)

閉ざされた空間の多様性／文明の萌芽／認知能力＝知恵こそが、文明の基盤をなす／中規模都市がで始める／完全計画都市、テオティワカン／多くの人を迎える巡礼地として／暦と数の体系／「太陽のピラミッド」と「月のピラミッド」の二元性／墓は語る／古代人の交流—物を集めるネットワーク／文明の確立から崩壊へ—伝わり、つながる文明の諸要素

第三章 水都ヴェネツィア：交易都市から文化都市へ(陣内秀信)

水と共生する町、ヴェネツィア／逆—中央集権的構造都市—複雑に交差する水と陸のネットワーク／都市を解読する／交易都市から文化都市へ／オリент志向と柔軟性／分散的都市から統合的都市へ／なぜ都市に人が集まるか／城壁の無い町／都市モデル再考／川が結ぶネットワーク／水車の活用／考古学調査がヴェネツィアのイメージを変える／ヴェネツィアの食と産物のネットワーク／ラグーナは自然・環境・歴史の宝庫—文化都市から環境都市へ

橋爪大三郎氏絶賛！

いま明らかになる伝説の学者の素顔

評伝 小室直樹

村上篤直著

四六判上製カバー各巻2400円
上巻 762頁／下巻 744頁

上巻 ◆学問と酒と猫を愛した過激な天才
下巻 ◆現実はやがて私に追いつくであろう

橋爪大三郎編著『小室直樹の世界』から五年。もう一つの日本戦後史がここにある！「小室直樹博士著作目録／略年譜」の著者・村上篤直が、関係者の証言を元に、学問と酒と猫をこよなく愛した過激な天才の生涯に迫る。

◆上巻 おもな目次◆

はしがき

- 1 柳津国民学校／2 会津中学校／3 会津高校／
- 4 京都大学／5 軍事科学研究会と平泉学派／
- 6 大阪大学大学院経済学研究科／7 米国留学、栄光と挫折／8 東京大学大学院法政学研究科／
- 9 田無寮／10 社会指標の研究／11 小室ゼミの誕生と発展／12 一般評論へ／13 小室ゼミの拡大／
- 14 瀕死の小室／15 出生の謎／注
- あとがき／小室直樹著作目録／人名・事項・猫名索引

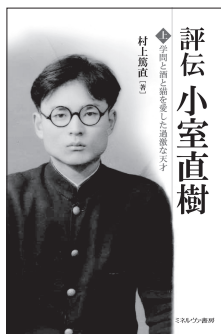
◆下巻 おもな目次◆

はしがき

- 16 おそろのべし、カップ・ビジネス／17 『旧約』の時代と『新約』の時代／18 田中角栄／19 対話／20 小室ゼミの終焉／21 スナック・ドン／22 日本近代化と天皇／23 誰も書けなかった韓国／24 昭和天皇／25 結婚／26 死、訣別、そして再会／27 『原論』の時代／
- 28 晩年／29 会津彷徨／30 没後／注
- あとがき／小室直樹略年譜／人名・事項・猫名索引

評伝 小室直樹

村上篤直著



評伝 小室直樹

村上篤直著



【好評既刊】

小室直樹の世界 社会科学の復興をめざして 橋爪大三郎編著 2500円

伝説の小室ゼミの出身者たちが語るそのアカデミズムの真髄とは。

小室直樹博士著作目録／略年譜に加え、2011年3月に行われた記念シンポジウムを完全採録。



ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1 ☎075-581-0296 宅配可／価格税別
E-mail eigyo@minervashobo.co.jp URL <http://www.minervashobo.co.jp/>



表紙写真：冊巨里(朝鮮、19世紀末の作)
蔵：The Spencer Museum of Art, the University of Kansas
(Public Domain)

チェッコリ(책거리; 冊巨里: Chackgeori)は、
18世紀後半から20世紀前半にかけて朝鮮の宮廷と
民衆の間で流行した絵画ジャンル。冊架図とも。
本と日用品が積まれた本棚がモチーフの静物画で、
本、文字、学問に対する朝鮮の人々の深い愛情が
生んだ表現とも言われる。

※季刊『大学出版』は、大学出版部協会の
公式HPでも、PDF版を全文無料で
ダウンロードいただけます

大学出版 116号(2018年秋)

2018年10月1日発行

発行

頒価 100円(千共)

発行所：一般社団法人 大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替 00170-8-389131

〒102-0073
東京都千代田区九段北1丁目14番13号
メゾン 萬六 403 号室
TEL 03-3511-2091 FAX 03-3511-2092
E-mail : mail@ajup-net.com
URL : http://www.ajup-net.com/

表紙デザイン：阿部卓也

一般社団法人 大学出版部協会 加盟出版部一覧

■ 北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

■ 弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町1番地
弘前大学附属図書館内
TEL 0172-39-3168 FAX 0172-39-3171

■ 東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内
TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

■ 流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120
TEL 0297-60-1167 FAX 0297-60-1165

■ 聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

■ 慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL 03-3451-3168 FAX 03-3451-3124

■ 専修大学出版局

〒101-0051 千代田区神田神保町3-10-3
TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

■ 大正大学出版会

〒170-8470 豊島区西果嶋3-20-1
TEL 03-3918-7311 FAX 03-5394-3038

■ 玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

■ 中央大学出版部

〒192-0393 八王子市東中野742-1
TEL 042-674-2351 FAX 042-674-2354

■ 東京大学出版会

〒153-0041 目黒区駒場4-5-29
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

■ 東京電機大学出版局

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番
TEL 03-5284-5385 FAX 03-5284-5387

■ 法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北3-2-3
法政大学九段校舎内
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

■ 武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町1-1-20
武蔵野大学構内
TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

■ 武蔵野美術大学出版局

〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
TEL 0422-23-0810 FAX 0422-22-8309

■ 明星大学出版部

〒191-8506 日野市程久保2-1-1
TEL 042-591-9979 FAX 042-593-0192

■ 早稲田大学出版部

〒169-0051 新宿区西早稲田1-9-12
TEL 03-3203-1551 FAX 03-3207-0406

■ 関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL 045-786-5906 FAX 045-785-9572

■ 東海大学出版部

〒259-1292 平塚市北金目4-1-1
TEL 0463-58-7811 FAX 0463-58-7833

■ 名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋市中千種区不老町1
名古屋大学構内
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

■ 名古屋外国語大学出版会

〒470-0197 日進市岩崎町竹ノ山57
名古屋外国語大学内
TEL 0561-75-2503 FAX 0561-75-1723

■ 三重大学出版会

〒514-8507 津市栗真町屋町1577
三重大学総合研究棟Ⅱ3階
TEL 059-232-1356 FAX 059-253-3095

■ 京都大学学術出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69
京都大学吉田南構内
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

■ 大阪経済法科大学出版部

〒581-8511 八尾市楽音寺6-10
TEL 072-941-9129 FAX 072-941-9979

■ 大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617

■ 関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL 06-6368-0238 FAX 06-6389-5162

■ 関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL 0798-53-7002 FAX 0798-53-5870

■ 広島大学出版会

〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2
広島大学図書館内
TEL 082-424-6226 FAX 082-424-6211

■ 九州大学出版会

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-8-34
九州大学産学官連携イノベーションプラザ
305
TEL 092-833-9150 FAX 092-833-9160